

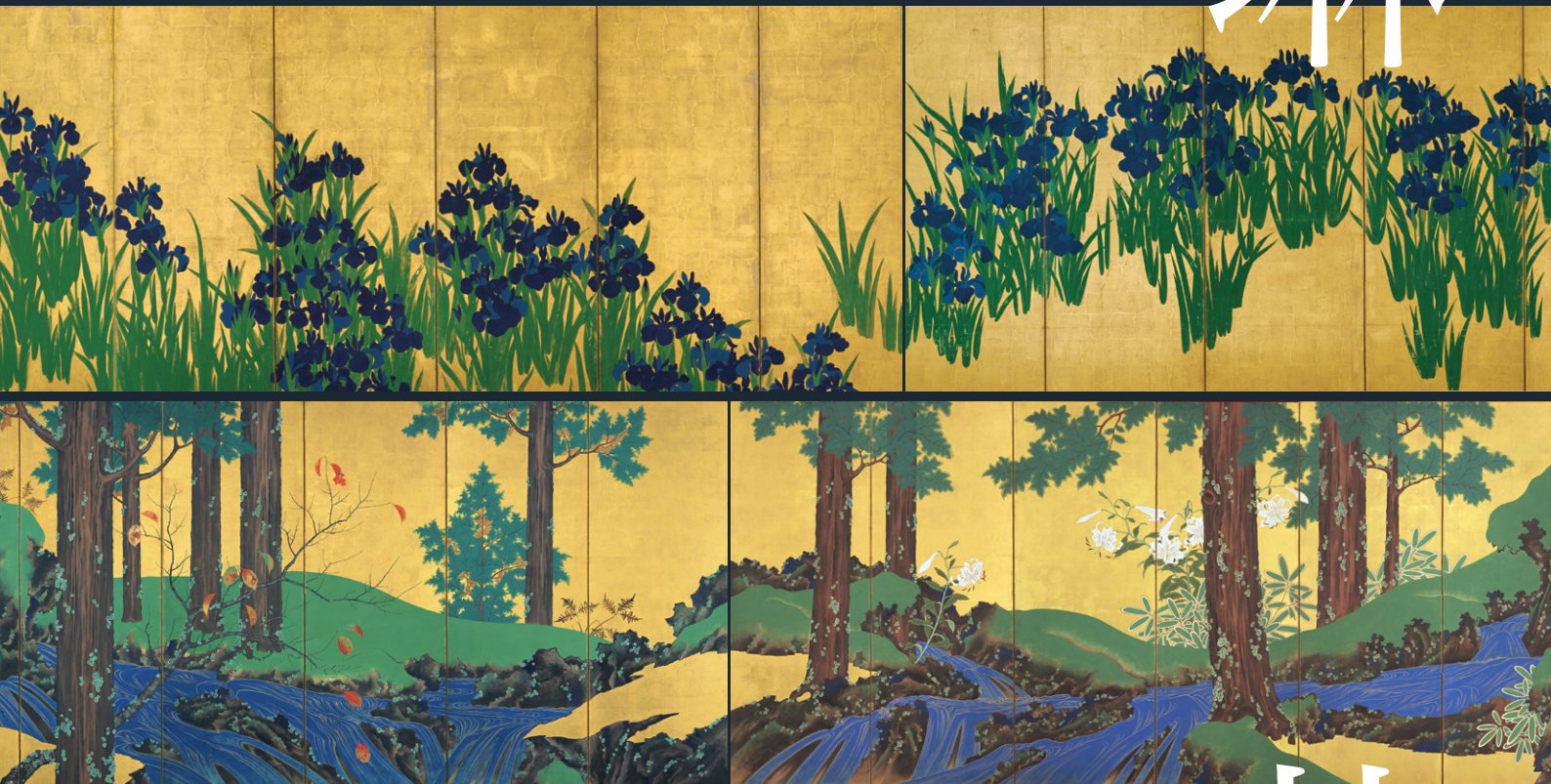
特別展

燕子花図と夏秋溪流図

Iris and Mountain Streams in Summer and Autumn

光琳

こうりん



おがたこうりん かきつばたずびょうぶ すずききいつ なつあきけいりゅうず
尾形光琳(1658~1716)による国宝「燕子花図屏風」と、鈴木其一(1796~1858)による「夏秋溪流図
びょうぶ
屏風」、根津美術館が誇る琳派の二大傑作を同時にご覧いただく展覧会です。

光琳は京都の高級呉服商の家に育ち、本阿弥光悦ほんあみこうえつや俵屋宗達たわらやそうたつなど江戸初期の町衆文化の中に生まれ
られた琳派を大成した画家です。一方、やはり衣裳と関わりの深い紫染職人むらさきぞめを父にもつと伝えられる其一
は、江戸の地において光琳の画風を再興した江戸琳派の祖・酒井抱一さかいだういつの高弟にあたります。

二つの作品の表現は、大きく異なります。無背景に燕子花のみが大胆に描きだされた「燕子花図
屏風」は、まるで衣裳デザインのように、澁刺とした生気を放っています。対して「夏秋溪流図
屏風」は、溪流の流れる檜の林に山百合や桜紅葉が彩りを添える一見何気ない情景に、どこか非現実
的な感覚を湛えています。しかし二つの作品には、モチーフが形づくる律動感や金地に青や緑が
映える色彩などの点で、相通じるものも見出されます。

このたびの展覧会では、宗達以来の琳派の金屏風の数々とともに、「燕子花図屏風」と「夏秋溪流図
屏風」を並べてご覧いただけます。二つの作品は、果たしてどんな風に見えるでしょうか。あわせて、
其一が活躍した江戸後期、19世紀前半から、近代に入って20世紀初頭までの、江戸＝東京で制作
された作品を展示します。

2017年4月12日(水)~5月14日(日)

【休館日】 毎週月曜日、ただし5月1日は開館 【夜間開館】 5月9日(火)~5月14日(日)午後7時まで開館
(入館は午後6時30分まで)

其一

きいち

燕子花図と夏秋溪流図



かきつばたすびょうぶ お那たこうりん
燕子花図屏風 尾形光琳筆 6曲1双 紙本金地着色 日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

総金地の6曲1双屏風に、濃淡の群青と緑青のみによって鮮烈に描きだされた燕子花の群生。左右隻の対照も計算しつつ、リズムカルに配置されている。『伊勢物語』第9段、燕子花の名所である八橋の場面に想を得たとされる。



なつあきけいりゅうすびょうぶ すずききいつ
夏秋溪流図屏風 鈴木其一笔 6曲1双 紙本金地着色 日本・江戸時代 19世紀 根津美術館蔵

溪流の流れる檜の林。右隻は山百合の咲く夏景、左隻は桜の葉が紅に染まる秋景に表される。群青と金泥による溪流のアメーバのような描写、増殖するような苔の表現、真横向きにとまる蟬などが、非現実的な感覚を画面に与える。

ポイント！

二点の作品にはともに群青ぐんじょうが多用されています。藍銅鈷らんどうこうという鈷物から作られる群青は、今日でももっとも高価な絵の具の一つです。「燕子花図屏風」では燕子花の花に濃淡様々な群青が分厚く、また「夏秋溪流図屏風」では溪流に鮮やかな群青がたっぷり塗られています。両者ともに特別な注文で制作されたことが、絵の具からうかがえます。

ここもポイント！

落款らくかん(署名と印章)の形式や書体から、「燕子花図屏風」と「夏秋溪流図屏風」はいずれも、それぞれの画家の40歳代半ばに描かれたと考えられています。画家としてのスタートの遅かった光琳にとっても、師・抱一の画風からの飛躍を模索していた其一にとっても、画業の転換点に位置する作品なのです。



おうかけまりすびょうぶ
桜下蹴鞠図屏風 6曲1双 紙本金地着色 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

右隻には桜の下で蹴鞠をする公卿や僧侶、左隻には垣根の外で待つ従者たちを描く。左右隻の対照的な構図は「燕子花図屏風」に受け継がれる。



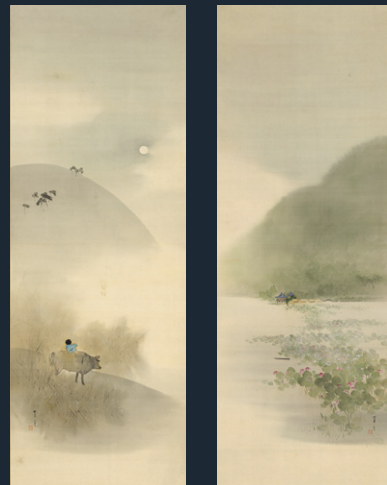
なつくさずびょうぶ おがたこうりん
夏草図屏風 尾形光琳筆 2曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

晩春から夏にかけての30種類近い草花が描きだされている。華やかな装飾性に写生的な描写を兼ね備えた表現は、江戸琳派を先取りする。



たかおだゆう よしわらかよいぶねず
高尾大夫・吉原通船図
歌川広重筆
2幅 絹本着色
日本・江戸時代 19世紀
根津美術館蔵

歌川広重(1797~1858)は其一と同時代を生きた浮世絵師。本作品は、山形の天童藩が御用金を調達した商人に下賜するため広重に発注した肉筆画のひとつ。



しのぼずのはす かれののぼくどうず
不忍蓮・枯野牧童図
わたなべせいてい
渡辺省亭筆
2幅 絹本着色
明治~大正時代 19~20世紀
根津美術館蔵 福島静子氏寄贈

渡辺省亭(1852~1918)はパリで印象派の画家たちと交流した日本画家。卓越したデッサンに基づく瀟洒ながら機知に富んだ画面構成を得意とした。

同時開催

展示室5 行楽を楽しむ器 — 提重と重箱 —

心躍る春の花見や秋の紅葉狩り。季節の折々に繰り出す行楽のお供として花を添えた、蒔絵の提重や弁当箱の数々をご覧ください。



なしじょうたいよせまきえさげじゅう
梨地謡寄蒔絵提重
木胎漆塗
日本・江戸時代
19世紀
根津美術館蔵

銀の徳利を備えた贅沢な提重。重箱の全面に散らした扇面と団扇の中には、さまざまな謡曲(うたきょく)を題材とした図をあしらっている。



さくらおりえだおながどりまきえさげじゅう
桜折枝尾長鳥蒔絵提重
木胎漆塗
日本・明治時代
19世紀
根津美術館蔵
竹田恆正氏寄贈

三月の雛遊びにふさわしい小さな提重。明治29年(1896)に明治天皇の第六皇女、常宮昌子内親王(つねのみやまきこ)が、時の皇太子妃より拝領した品。

展示室6

新緑のころ —初夏の茶の湯—

草木が芽吹き、山々が鮮やかな緑色にかわる初夏。爽やかなこの季節にふさわしい夏向きの茶道具約20件を取り合せます。



せいじたけのこはないれ
青磁筍花入
龍泉窯 施釉陶器
中国・南宋時代
13世紀
根津美術館蔵

日本で「筍」と呼ばれる頸や肩に凸帯が巡らされた花入。全体に厚く掛けられた青磁釉は、明るい青緑色に発色している。



かたつきちやいれ おどりこま
肩衝茶入 銘 躍駒
瀬戸 施釉陶器
日本・江戸時代
17世紀
根津美術館蔵

銘「躍駒」は、胴部に入れられた大胆な篋目より、飛び跳ねる馬の子を連想し付けられた。背が高く、茶褐色の釉が艶やかな茶入である。

通期展示 2017年度から展示が新しくかわります。

展示室3

仏教美術の魅力 —金銅仏—

中国、朝鮮半島、日本の金銅仏を展示。東アジアにおける初期仏教美術の優品に、ほとけの多様な造形をご覧ください。



重要文化財
しゃかたほうにぶつへいざろう
釈迦多宝二仏並坐像
中国・北魏時代
太和13年(489)
根津美術館蔵

厚い銅板に釈迦・多宝の二仏を薄肉彫りに表わし、四脚の台座を付ける。台座裏面の銘文には、兄弟4人が亡き父母の供養のために発願したことが記されている。北魏金銅仏の名品。

お知らせ



©藤塚光政

● 夜間開館

本展覧会最終週の5月9日(火)～5月14日(日)は開館時間を夜7時まで延長します。初夏の宵の根津美術館でゆったりとした時間をお過ごしください。

● シャンパン

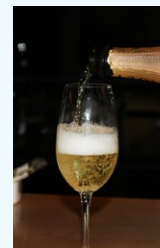
NEZUCAFÉでは、5月9日(火)～5月14日(日)の夜間開館の期間中、17時よりシャンパンが登場。シャンパンが先か、光琳が先か、はたまた庭のカキツバタが先か、楽しみ方はお客様次第です。

グラス シャンパン 1,500円(税込)
プロシュート&オリーブ 600円(税込)



● 庭のカキツバタ

当館庭園の池では、毎年4月末～5月上旬にかけてカキツバタの群生が花を咲かせます。尾形光琳筆「燕子花図屏風」のご鑑賞とあわせ、初夏の庭の風情とカキツバタをお楽しみください。





● 仕舞

演目 「山姥」(能楽師 九世観世鍔之丞師)

日時 2017年5月11日(木) 午後5時30分～

※ 詳細はホームページ、または電話にてお問合せください。

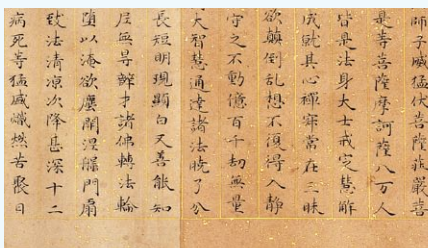
関連プログラム

講演会	日時 未定 講師 岡野 智子氏 (細見美術館 上席研究員) 会場 根津美術館 講堂 定員 130名 ※ 詳細が決まり次第、ホームページ・展覧会チラシにてお知らせします。
(申し込み方法)	当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。 ※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。
モーニングレチャ ー イブニングレチャ ー	日時 4月18日(火)、28日(金) 午前11時～ 日時 5月9日(火) 午後5時30分～ 会場 根津美術館 講堂 定員 いずれも130名 担当学芸員が展覧会の見どころをスライドを用いて解説いたします。 各回とも45分間程度。開始の15分前より開場。 ※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

開催概要

展覧会名	特別展「燕子花図と夏秋溪流図」
主催	根津美術館
開催期間	2017年4月12日(水)～5月14日(日)
開館時間	午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
夜間開館	5月9日(火)～5月14日(日)は午後7時まで開館。(入館は午後6時30分まで)
休館日	毎週月曜日、ただし5月1日(月)は開館
入館料	一般1300円(1100円) 学生1000円(800円) ()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
前売券	一般1100円 学生800円 ※2017年3月4日(土)～3月31日(金)「高麗仏画 一香りたつ装飾美」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所 お問合せ	〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1 TEL 03-3400-2536 (代表)

次回展



国宝 無量義経 日本・平安時代 11世紀 根津美術館蔵

企画展

はじめての古美術鑑賞 一紙の装飾一

2017年5月25日(木)～7月2日(日)

書や絵画を書くための紙(料紙)にほどこされた多様な装飾を、作品を例にやさしく解説いたします。